

3. リード抜去手技の応用

岡田 綾子 信州大学付属病院循環器内科

4. リード抜去手術のニューデバイス

西井 伸洋 岡山大学大学院医歯学総合研究科先端循環器治療学講座

5. 日本におけるリード抜去の現状：J-LEX 登録制度の紹介と最新データ

草野 研吾 国立循環器病研究センター心臓血管内科

リード抜去手術が通常医療として日本に導入されてから10年が経過した。当初は限られた施設で主に感染症例に適用されていたが、徐々に実施施設が増加し非感染症例にも実施されるようになってきた。現時点では国内で年間500例以上の治療が行われるようになり、2017年にはHRSのリードマネジメント・エキスパート・コンセンサスが改定され、今年度には日本のガイドラインが公表される予定である。日本に導入されてから短期間でこの新しい医療が成熟しつつある状況において、もう一度その適応や手技を再確認しながら今後の展開を占ってみたい。

ディベートセッション

2月16日(土)

第1会場 8:30~9:30

ディベートセッション1

ILRと長時間Holter

座長 西崎 光弘 関東学院大学学院保健センター/小田原循環器病院

中島 博 千葉西総合病院不整脈センター/一般財団法人日本デバイス治療研究所

演者

1. Pro: ILRを積極的に活用すべき

古川 俊行 聖マリアンナ医科大学東横病院失神センター・心臓病センター

2. Con: 長時間モニタを応用すべき

大江 学治 産業医科大学循環器内科

第1会場 9:30~10:30

ディベートセッション2

リード抜去は積極的に行うべきか

座長 庄田 守男 東京女子医科大学循環器内科

今井 克彦 呉医療センター・中国がんセンター心臓センター心臓血管外科